2026 年度
卒業研究の手引き

同志社大学

スポーツ健康科学部

＜　目　次　＞

■卒業研究Ａ・Ｂ（計6単位）授業計画

I.　卒業研究の意義と目的	P. 2
II.　学習目標	P. 2
III. 学習方法	P. 2
IV.　スケジュール	P. 3
V.　卒業論文の体裁	P. 4
VI.　卒業研究発表会	P. 4
卒業論文本文表紙：参考	P. 5
卒業論文抄録集原稿の書き方（例）	P. 6

■卒業研究に関わる倫理審査要領

同志社大学「人を対象とする研究」倫理基準　抜粋	P. 7
卒業研究用の書式で倫理審査を受ける場合の手順	P. 8
卒業研究用の書式を使用する適用範囲	P. 9
卒業研究の研究倫理審査から結果までのフローチャート	P. 10

■参考資料

スポーツ健康科学部スポーツ健康科学科卒業論文審査基準	P. 11
スポーツ健康科学部ルーブリック	P. 12

卒業研究Ａ・Ｂ(計6単位)授業計画

I.　卒業研究の意義と目的

スポーツ健康科学部が掲げるディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与に関する方針）は、「『健康』と『スポーツの社会的発展』に関する課題を発見し、その解決方策をスポーツ健康科学の視点から探究できるようになる知識・態度・技能の習得」にあります。ここでいう「知識」とは、「健康とスポーツ活動およびそれらをとりまく社会環境に関する知見と諸理論を包括したスポーツ健康科学の体系的な理解」であり、「態度」は「健康とスポーツの社会的発展に関する課題を発見し、その解決方策をスポーツ健康科学の視点から探求できるようになる」構えを表し、「技能」とは、「スポーツ健康科学の特性を適切に運用できるようになり、健康の増進やスポーツの社会的発展に寄与・貢献できるようになる」能力のことを指しています。卒業研究は、これらの知識・態度・技能を統合する創造的思考能力の習得を到達目標としています。その到達目標を実現するために、スポーツ健康科学部のカリキュラムは、第5・6・7・8セメスターに専任教員担当の必修科目「演習I～IV」をそれぞれ20クラス程度配置し、4年次に卒業研究Ａ・Ｂ（計6単位）を履修するように設計されています。卒業研究では、それまでに学んだ科目の履修を通して取り組む研究テーマを定め、研究計画の立案を行い、自ら定めた問題が帰属する領域の科学的方法論に従って理解を深めることを目指します。つまり、卒業研究とは、学部で習得した知識・態度・技能の集大成で、その結果、学士（スポーツ健康科学）の学位が授与されます。

II.　学習目標

1. 研究課題とその背景や意義を明らかにし、テーマを設定できる。
2. 研究テーマや研究目的に適した研究計画を作成でき、かつ倫理的な配慮がされている。
3. 文献検索の意義と方法について理解し、必要な文献を収集できる。
4. 文献を整理し、批判的に読み、適切に活用することができる。
5. 研究計画に基づいて、適切なデータ収集ができる。
6. 収集したデータを客観的に分析し、研究結果として適切に表現することができる。
7. 研究活動の成果をまとめ、論理的思考に基づいた表現・記述による論文を作成し、かつ研究発表することができる。

III. 学習方法

1. 各担当教員の指導下で自主的に研究活動を行う。
2. 一人の学生が１つの論文を執筆する。実験や調査、フィールドワークなどの研究では、互いに協力して実験を行わなければならない場合が多く、共同実験や共同作業はやむを得ない。しかし、その場合でも卒業論文は単著として作成する。
3. 卒業研究は時間割表で指定された講義の時間以外で、主体的に研究に取り組むようにしなければ完成はおぼつかない。授業スケジュールを把握し、無理のない研究活動を行うようにする。

4. 研究活動においては倫理的配慮を忘れてはならない。この点については後述する「卒業研究に関わる倫理審査要領」等を参照すること。
5. 卒業論文の提出に至るまで、計画を立てて進める。
6. 卒業論文の評価は各ゼミ担当教員が行う。
7. 卒業研究については、ゼミ個別もしくは合同の発表会において全学生が口頭でプレゼンテーションを行い、研究成果を報告する。

Ⅳ. スケジュール

3 年次	研究計画・執筆計画（案）策定 （各ゼミ）	12 月頃～
	倫理審査 卒業研究の倫理的配慮について、指導教員と相談の上、倫理審査を受審するか否かを決定する。受審する場合は、「卒業研究に関わる倫理審査要領」(P.7) に基づき倫理的配慮について確認を行う。厳密な倫理審査については、同志社大学研究倫理審査委員会で行う。	適宜
4 年次	倫理審査	適宜
	卒業論文提出期限　【※】	2026 年 12 月 11 日（金） 17：00 厳守
	ゼミ個別卒業研究発表会	卒業論文提出後 面接授業期間内
	ゼミ代表者の合同卒業研究発表会	2027 年 1 月 12 日（火）
	卒業式（学士学位授与）	3 月下旬

※春学期（9月）卒業希望者は2026年7月3日（金）17時までに提出のこと。また論文提出後7月4日（土）～7月17日（金）にポスター発表を行う。

V.　卒業論文の体裁

1. 論文の書式・枚数

論文の形式および枚数は、研究領域によって異なることが予想されるため各指導教員の指示に従う。

2. 卒業研究発表会における抄録

卒業研究抄録集を作成するため、A4用紙1枚に「目的」、「方法」、「結果」、「考察」、「文献」などを簡潔にまとめ提出（PDFファイル）する。作成要領（書き方）はP．6を参照すること。なおこの抄録集は製本されスポーツ健康科学部書庫に保管される。

3. 提出について

【提出物】

以下の3点である。すべて電子媒体（PDFファイル）とする。

・「卒業論文提出届」（1部）
（提出後、教員の自筆署名入りの電子ファイルを受け取ること）
・「卒業論文」（1部）
・「抄録」（1部）

【提出期限】

2026年12月11日（金）17：00厳守
※春学期（9月）卒業希望者は2026年7月3日（金）17時

【提出先・提出方法】

提出先は指導教員とする。原則オンライン提出とする(紙媒体での提出は受け付けない)。各教員からオンライン提出の具体的方法について指示を受けること（e-classやe-メールなどが想定される)。

【注意点】

・「卒業論文提出届」と「卒業論文」、「抄録」の題目が一致するよう必ず確認すること。
・正当な理由で提出期日までに提出できない場合は代理提出が認められる場合がある。必ず指導教員に連絡を取り指示を受けること。
・提出した卒業論文一式は、差し替えることは出来ない。

VI.　卒業研究発表会

ゼミ個別卒業研究発表会

◎卒業論文提出後、面接授業期間内に実施する。詳細については指導教員から指示がある。

ゼミ代表者の合同卒業研究発表会

◎2027年1月12日（火）に実施する。詳細については、後日、卒業研究発表会実施要領を公表するので、そちらを参照すること。

【注意点】

卒業論文を提出した学生は、ゼミ個別卒業研究発表会において必ず研究成果を発表しなければならない。また、ゼミ代表者の合同卒業研究発表会には必ず出席すること。

（卒業論文本文表紙：参考）

20XX 年度　卒業論文

論　文　題　目

スポーツ健康科学部
スポーツ健康科学科
20XX 年度入学

学生 ID

氏　名

（卒業論文抄録集原稿の書き方（例）　－書式と執筆上の留意事項－）

論　文　題　目

同志社　太郎　学生 ID
指導教員：今出川　太郎

１．研究目的
(1) この項目の見出しには「問題」「課題」という言葉もよく用いられる。
(2) 一般に「仮説」はこの項目のなかで書く。

２．方法
(1) 見出しとして「研究方法」「調査方法」「実験方法」などの言葉もよく用いられる。
(2) 研究の手順を明確に述べる。

３．結果
(1) データと統計学的検定の結果を客観的に述べる。
(2) 箇条書きなどにより明確に記述する。
(3) 「結果と分析」として、ここで仮説との関係を検討するなど、結果の意味を考えることも多い。

４．考察
(1) 結果を分析し、明らかになったことがらにどんな意義があるか考える。
(2) 残された問題点や疑問点も検討し、今後の発展のための手がかりを明らかにしておく。

５．結論
(1) 結果～考察を通して、何が言えるかを簡潔に総括する。

６．引用・参考文献
(1) 本稿で引用した文献のうち特に参考になった文献を 1～2 点あげる。

＜書式について＞
(1) このファイルを見本として原稿を作成してください。書式は次の通りです。
　①全体：A4 サイズ・45 字×42 行・余白（上下左右）各 25 ㎜・10.5 ポイント
　②二段組みの部分： 21 字程度
(2) 見本として作成しているのは、＜書式について＞より上の部分です。A4 サイズ 1 枚で提出してください。

＜執筆上の留意事項＞
(1) ここに示した『書き方』は一般的形式です。各自でゼミ担当教員の指導のもと工夫して、読む人が卒業研究の内容を理解しやすいように努めてください。
(2) 原稿はそのまま写真製版・印刷されるので、内容はもとより、文字やレイアウトにも注意してください。
(3) 「研究目的」から「結論」までの各項目に適当なスペースを割り当て、全体としてバランスのよいものにしてください。
(4) 各項目の内容がいくつかに分かれる場合には、小見出しをつけて分かりやすくなるように工夫してください。
(5) 必要に応じて、要点を示す図表なども入れるとわかりやすい抄録になります。

卒業研究に関わる倫理審査要領

同志社大学「人を対象とする研究」倫理規準　抜粋

人を直接の対象とし、個人からその人の行動、環境、心身等に関する情報、データ等を収集・採取して行われる研究（以下「人を対象とする研究」という）を遂行する上で求められる研究者の行動、態度の倫理的規準及び研究計画の審査に関する事項は、標記倫理基準に定められ、研究の基本は次のように定められている。人を対象とする研究を行う者は、生命の尊厳及び個人の尊厳を重んじ、科学的及び社会的に妥当な方法・手段で、その研究を遂行しなければならない。また、人を対象とする研究で、「ヒト胚幹細胞を中心としたヒト胚研究」、「ヒトゲノム・遺伝子解析研究」等生命倫理に関わる研究を行う者は、当該法令及び所轄庁の告示、指針等を遵守しなければならない。さらに、研究者が、個人の情報、データ等の収集・採取を行う場合、安心・安全な方法で行い、提供者の身体的、精神的負担及び苦痛を最小限にするよう努めなければならない。-----　同志社大学は、本学の学術研究が社会から信頼と尊敬を得るべく、あらゆる努力をはらうことを宣言する。

はじめに

大学は深く専門の学芸を教授研究し、知的、道徳的及び応用的能力を展開させることを目的とする使命を担っており、学術研究が社会から負託された公共的、公益的な知的生産活動であることを真摯に受け止めなければならない。そのためには、研究の自由及び研究者の自治が保障されなければならないが、一方で、自らを律する高度な倫理的規範が求められる。その倫理的規範の基盤、生命倫理の基本的な考え方は、ヘルシンキ宣言に明快であり、このヘルシンキ宣言の考え方を十分に踏まえて計画しなくてはならない。

したがって、卒業研究を行うにあたっても倫理的配慮が不可欠で、ヘルシンキ宣言や本学研究倫理規定の精神を理解・遵守し、自らの研究を計画する上で具体的にどのような配慮や方策を講じるべきかを考えなければならない。

卒業研究用の書式で倫理審査を受ける場合の手順

（作成）

1　倫理審査を受ける必要があるかどうかについては指導教員とよく相談すること。倫理審査を受ける場合は倫理審査申請書（スポーツ健康科学部・卒業研究用）「様式ver. 7.0（2023年改定版)」（学部ホームページからダウンロードのこと）を使用し、同意書やアンケート調査用紙等と一緒に提出すること。なお、ver. 7.0（2023年改定版)は2023年6月28日から運用を開始する。

（申請）

2　申請者（主たる研究実施者：以下申請者）は倫理審査申請書に記載し（教員自筆署名欄以外を記載すること。電子入力可)，指導教員から許可を得た後、審査教員（指導教員以外のスポーツ健康科学部専任教員）に提出し、倫理的配慮について説明するとともに，審査を受ける（説明方法は問わない)。

（審査結果の報告）

3　審査委員は、審議結果（下表）を申請者に伝える。

審査結果	対　応
承認	申請手続きはこれで終了です。
要修正	コメントに応じて修正し、同一の審査委員に、再審査を受けてください。
大学審査	より厳格な倫理審査が必要です。学部でなく大学の研究倫理審査を受けて下さい。

（承認された後の申請書の提出）

4　審査教員からの承認後，申請者は指導教員及び審査教員の自筆署名の入った申請書の PDF ファイルを作成し、その PDF ファイルを、

・指導教員
・審査教員
・スポーツ健康科学部事務室（jt-spojm@mail.doshisha.ac.jp）

の 3 者に電子メールで提出する（一斉送信)。

卒業研究用の書式を使用する適用範囲

「卒業研究用」の倫理審査は、対象を卒業研究に限定しています。学会発表や論文投稿において、発表先が倫理審査を求めている場合は、同志社大学研究倫理審査委員会の審査を受けてください。

「卒業研究用」の倫理審査が承認された後に、同志社大学研究倫理審査委員会の審査を受ける場合は、同志社大学研究倫理審査委員会の承認以降に実施された研究が倫理審査の対象となります。承認以前の研究は、対象外となりますので、申請から承認までの時間（２ヶ月程度）を考慮して受審してください。

○「卒業研究用」の書式で提出することができる研究（およその基準）

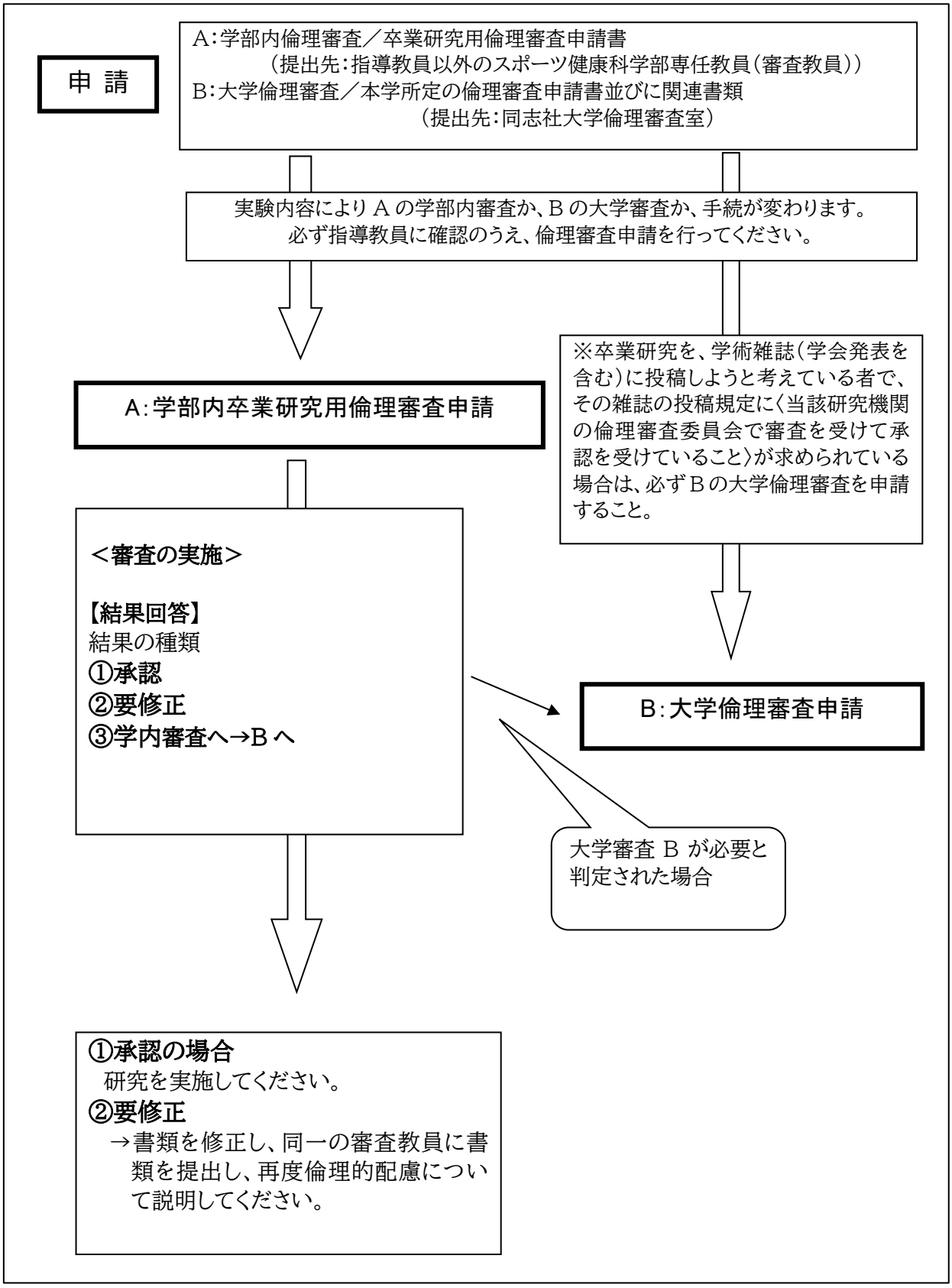
1　学部学生の卒業研究である。（大学院生の課題研究および特別研究は該当しない。）
2　研究方法が安全である。
　（例）表面筋電図のような侵襲性のない測定方法を用いている。
　　健康な若者が被検者となっている。
3　小規模な研究である。
4　情報が漏洩したとしても被害がほとんどないと思われる。
　（例）無記名アンケートであり、個人情報を含んでいない。

○　卒業研究であっても同志社大学研究倫理審査委員会の審査を受けるべき研究

1　学会発表や誌上発表に至る可能性のある研究。
2　研究方法の一部に、完全に安全であると断言できない手法が含まれている
　（例：採血など）。
3　大規模な研究である。
4　情報が漏洩した場合、かなりの被害が発生することが予想される。
　（例）プライベートな内容を含んだ記名式アンケートの場合、回収作業中あるいは保管中に紛失すると対象者のプライバシーが侵害される恐れがある。

卒業研究の研究倫理審査 申請から承認までのフローチャート

研究計画に応じてA、Bのいずれかを選択する。



スポーツ健康科学部スポーツ健康科学科卒業論文審査基準

2020 年 1 月 22 日制定
2026 年 4 月 1 日改正

趣旨

スポーツ健康科学部ではカリキュラムポリシー（教育課程編成・実施の方針）の一つである「必修科目の演習科目から、スポーツ健康科学の課題群の解決に必要な高度な専門的知識・思考技術の習得を到達目標とし、3 年次から 4 年次にかけて学術論文等の講読と研究発表を重視する演習Ⅰから演習Ⅳを 8 単位履修し、学術的・科学的見地から分析する能力を養う（思考力・判断力・表現力）」にもとづいて、卒業論文審査基準を以下のように定める。定められた期限までに提出された卒業論文、並びに卒業研究発表会における発表及び質疑を通じてその内容を審査し、ルーブリックを用いて到達度を確認する。

1.　研究の目的の妥当性

研究テーマは新規性、独創性があり合理的であるか。

2.　情報収集能力

研究課題の背景や意義についての知識は十分なものか。研究を理解するための知識の解説や先行研究についての説明が十分で、研究課題の設定に至るまでの論理が合理的であるか。

3. 研究方法の妥当性

研究計画や研究方法について十分な吟味と説明がなされ、研究課題の分析に最適な実験方法や調査方法であったか。実験の再現性を保証するために、研究方法が詳細に記載されているか。

4. 問題分析能力

実験データや調査結果についての整理と解析が十分になされ、一貫した流れの中で記載されているか。 得られた結果に基づいた仮説や結論の展開が十分であるか。結論に至る議論の展開に矛盾がなく、論理性が維持されているか。

5. 社会・学会等への貢献

広く社会や当該研究領域の発展に貢献する学術的価値が認められるか。

6. 将来性

当該研究において残された課題を把握し、今後の発展性を提示しているか。

7. 情報発信能力

論文や研究発表は論理的に分かりやすく構成され、質問に対して的確に答えられていたか。

以上

スポーツ健康科学部ルーブリック

2020年1月22日制定
2020年2月19日改正

評価基準評価指標	A	B	C	D	F
研究課題の理解度（知識）	□ 国内外の関連研究に関する最新情報を精査して、研究活動に利用できた。	□ 国内外の関連研究に関する情報を整理して、研究課題を説明できた。	□ 国内外の関連研究について把握できていたが、情報を整理して研究課題を説明できなかった。	□ 教員が説明した研究内容しか理解していなかった。	□ 研究内容について理解していなかった。
研究手法の習得（技能）	□ 研究課題を遂行するために必要な研究手法（実験・調査など）に精通していた。	□ 研究手法の実施手順を把握し、その理論的な概略を理解していた。	□ 研究手法の実施手順は把握していたが、理論的には理解していなかった。	□ 研究手法の実施手順はおおよそ把握していたが、その実施には補助者が必要であった。	□ 必要な研究手法を把握していなかった。
課題発見能力（思考力）	□ 関連研究などの知見を自ら調査できた。未解決の問題点を抽出し、新規かつ有用な学術的な研究課題を発見できた。	□ 関連研究などの知見を自ら調査できた。未解決の問題点を抽出し，有用な研究課題を発見できた。	□ 教員が説明した研究課題の意義や背景を理解していた。教員が指示した関連研究を調査することができた。	□ 教員が説明した研究課題の意義や背景を理解していた。しかし、関連研究を調査する意欲が低かった。	□ 研究課題とする学術的な問題点が分からなかった。
課題解決能力（判断力）	□ 研究課題に対して適切な研究方法を自ら立案し、研究を自ら計画的に実行できた。	□ 教員が説明した研究方法を理解し、研究を自ら計画的に実行できた。	□ 教員が説明した研究方法を理解し、教員が指示した研究計画を実施できた。	□ 教員が説明した研究方法を十分に理解していなかった。教員が指示した研究計画を実施できたが、理論的な思考がともなっていなかった。	□ 研究方法を立案できなかった。また，指示された研究計画を実施しなかった。
発表能力（表現力）	□ 聞いている人の理解度を把握し、話しかけるような姿勢で明瞭に発表できた。質問に的確に答えることができた。	□ 発表原稿を見ずに発表できた。声量や時間配分が適切であった。質問にかなりの程度答えることができた。	□ 発表原稿を読み上げた。質問の回答に不明瞭な部分が少しあった。	□ 発表原稿を読み上げた。質問の回答に不明瞭な部分が多くあった。	□ 発表しなかった。
研究成果の到達度（表現力）	□ 研究計画に従い研究を実施し、成果を得ることができた。完成度の高い卒業論文としてまとめることができた。	□ 研究計画に従い研究を実施し、成果を得ることができた。やや高いレベルの卒業論文を作成することができた。	□ 研究計画に従い研究を実施し、成果を得ることができた。体裁の整った卒業論文を作成したが、標準的レベルであった。	□ 研究計画に従い研究を実施したが、十分な成果が得られなかった。そのため、標準レベルに到達しなかった。	□ 研究計画通りに研究を実施せず、また、未解決の部分があった。卒業論文も未完成であった。
積極性（主体性）	□ 自ら積極的に研究課題に取り組み、関連する知識を得ることができた。	□ 自ら研究課題に取り組み、解決しようとした。	□ 教員や大学院生等の指導を尊重し、研究課題に取り組むことができた。	□ 教員の指導に促されてから、研究課題に取り組むことができた。	□ 研究課題に取り組めなかった。
研究の発展性（多様性、協働性）	□ 他者の意見を尊重し、協力して研究を発展させる意欲が非常に高かった。	□ 他者の意見を尊重し、協力して研究を発展させる意欲があった。	□ 他者と協力して研究を発展させる意欲がみられた。	□ 研究を発展させる意欲が低かった。	□ 研究を発展させる意欲がなかった。